

図書館だより



2019年（令和元年）

6月19日・水曜日

第21号

北海道旭川永嶺高等学校
図書館

小論文に強くなろう

「小論文に強くなる」をテーマに第二回の企画展示を先週から実施しています。「第一学習社」並びに「学研」の小論文指導担当者による、小論文を読むために読んで事前におきたいとされる本の中で2017年度、2018年度に購入した新しい図書です。通常の排架されている書架から抜き出し、展示架の両面にNDC順に展示しています。全部で65冊展示しています。もちろん貸し出し可能ですし、予約も可能です。別紙の「小論文を書くために読んでおきたい本」（一覧）を参考にしてください。一覧は別紙の通りです。図書室のカウンターでも差し上げていますので、必要な方はお持ちください。

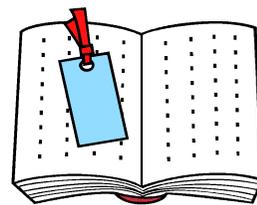


購入希望図書について

必要な図書資料を所蔵していない場合は購入希望を申請することができます。受付は随時です。購入の可否は学校図書館にふさわしいもので、多くの生徒が利用できるものであれば、ほとんど希望に応じています。

但し、購入は年3回を予定しているため利用できるようになるまでしばらく時間がかかります。

ご了承ください。



下記の図書は局員の勧める本です。

とんでもない死に方の科学 キャジディー 河出書房新社
請求記号 498K

まず最初にこの本は人がもし、このような状況に遭遇したらどういった過程をもって死に至るのかということがわかります。更にはどうすれば生き残る確率が高まるかということも載せてあります。

私が気に入ったものは13 眠れなかったら です。部活や勉強で忙しくてなかなか睡眠時間をとることが難しい皆さんにおすすめしたいです。寝られなかったら人にとって良くないという事は誰でも知っているでしょうが何故かと考えるとわからないはずです。唯一と言っているほどの身近な話題なのでぜひ読んでみてください。そして奇想天外な数々の題材に思う存分笑ってください。

スイッチを押すとき 山田悠介 文芸社
請求記号 913Y

私はこの本を見て学んだことがある。それは『現代社会の正しい生き方』だ。なぜ人は命を持ってしまったら最後まで生きなくてはならないのか、この世界に自分は必要だろうか、この本を読んでいるとそんな疑問など不釣り合いなのが瞬時にわかる。

このストーリーの中の子供たちは自分の命を自分の意思で止めることが出来るスイッチを渡されるという、設定は至ってシンプルなもの。

私がこの本を読んで一番最初に思いついたのは自殺をする子供たちがこの本を読んだら減るかもしれないということ。

図書局員のおススメの本

誤解されやすい方言小辞典 篠崎晃一 三省堂
請求記号 818S

日常の会話で、家族から「ちょっとアンタ暇だったらゴミステーションにゴミ投げてきて」とか言われるかもしれません。これは本州の人にとっては意味がわかりづらかったり全く意味が通らない事があります。

知っている人は多いと思いますが「ゴミステーション」も「～を投げる」というのは方言なのです。普段、共通語だと思っていた言葉の意味がわかるのが「誤解されやすい方言小辞典」です。

例を紹介した「～を投げる」の他にも「～をはく」や「～をかぶる」などの北海道の方言以外にも他の都府県の方言もあります。方言について知りたい人や興味がある人はぜひ読んでみてください。

猫と庄造と二人のおんな 谷崎潤一郎
青空文庫 他

この本は、ある男女三人が一匹の猫に振り回されるお話です。猫を溺愛する女、男から猫を引き離したい女、男への未練からどうしても猫がほしい女。三者三様の境遇の中、その中心にはいつもリリーという猫がいます。人間が猫を支配するはずが気づけば人間は猫に支配されてしまっています。

猫を愛する男の気持ちは愛猫家の方は共感できるかもしれません。関西弁で流れるように物語が進みます。著者の谷崎潤一郎は文豪の一人。この本を読めば、日本の文豪に興味を持つことができるかもしれません。

